

# 前近代の東アジア史 (4)

---

教科書PP.52～59

前回の動画では**宋と元**について扱いました。今回の動画は**明と清**について解説します。

# 明

- ・③③(朱元璋)(洪武帝)が1368年に南京を都として建国
- ・律令や科挙制度を整え, ③④(里甲制)で農民を支配
- ・第3代③⑤(永楽帝)の時代が最盛期。朝貢体制を確立

## 【朱元璋(洪武帝)ってこんな人】

- ①貧しい農民出身
- ②反乱軍の中で実力で実力を発揮し, 皇帝まで上り詰めた!
- ③でも, 人のことを信用していない
- ④だから, 皇帝になっても何でも自分でやっちゃう = 皇帝独裁
- ⑤独裁だけど, 農民出身だから農民の治め方はうまい! = 里甲制の実施

※里甲制・・・農民を大きな里というグループに分け, さらに甲という小さなグループに分けて徴税・治安維持の責務を負わせた。



# 清

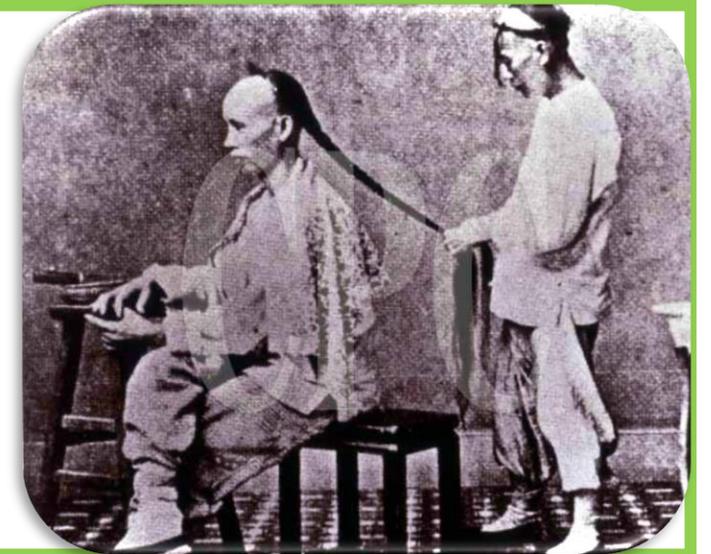
- ・女真人の③⑥(ヌルハチ)が金(後金)を建国
- ・第4代③⑦(康熙帝)・第5代③⑧(雍正帝)・第6代③⑨(乾隆帝)の時代が最盛期
- ・満漢併用制を採用する一方、辮髪（お髷）の強要や文字の獄などを行う
- ・征服地を藩部として自治を認め、④⑩(理藩院)が管理

☆軍事制度・・・八旗制

☆漢人に対して(アメとムチの使い分け)

【アメ】・・・漢人も官僚に採用(満漢併用),  
儒学など漢人の文化を尊重

【ムチ】・・・辮髪を強制, 言論統制(文字の獄)



ここからは補足事項を加えた  
より詳しい解説になります。

# ●清の周辺民族と支配のしくみ

ロシアと結んだ条約は？



# ●明の外交の基本方針は？

★**海禁**・・・民間人が自由に すること

・なぜ？・・・**倭寇**に対抗し、治安を回復するため

・じゃあ貿易とかどうするのよ？

⇒ 使節のみに貿易を許可( **体制**)

⇒朝貢しに来た国は認めてあげるよ！（冊封）

# ●永楽帝と鄭和は何を行った？

★永楽帝・・・3代皇帝

- ①都を 北京 に移す
- ②モンゴルに遠征
- ③鄭和を海外に派遣

・・・その目的は

⇒各地から明への朝貢を促すため



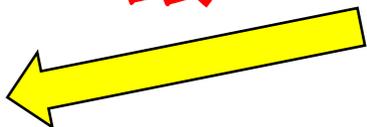
鄭和...永楽帝の命令で各地に朝貢を促す

もたらされた大量の銀が明の社会  
の変化をもたらす。  
(例) **一条鞭法**の実施

北虜



銀



銀



密貿易商人



**後期倭寇**

南倭

日本

マニラ

**ガレオン貿易**

銀



アメリカ大陸



明の**海禁**をゆるがす  
⇒明はのちに海禁をゆるめ、  
貿易が活発に

# Q. 明の社会と経済はどのように変化したか？

①江南では**商工業と都市**の発達

②農村にも**貨幣経済**が浸透する

…なぜ？⇒海外から が入ってきたから！

③でも、銀が足りない

…なぜ？⇒**軍事費**として使われるから ※どこと戦うの？

④軍事費を集めるのに税金が必要！

⇒農民は反発…

⑤税金は銀で一括納入＝

⑥ **【意味】 長江流域が経済の中心になった**

**北虜**と言われた  
北方の遊牧民

# ●清の平和による変化

## ①税制の変化

**復習** 明の時代に始まった税制は？ 答え: \_\_\_\_\_

⇒この税制から \_\_\_\_\_ に変わる

人頭税(人に対してかかる税金)を廃止し, 土地税と一緒にする!

## ②中国人の海外進出

⇒各地に仮住まいする中国人( \_\_\_\_\_ )が増加

# ●清の外交方針

★明と同じで

海禁とは？・・・民間人が自由に  
ること

原則として貿易は  のみのみ

★しかし、のちに例外を認める

ヨーロッパ商船の来航が許可された唯一の港・・・

す

## ●明末～清代の社会と文化

Q. 明代中期以降の新しい儒学を二つあげよ

⇒ ……理論より実践を重視！

⇒ ……儒学の古典を研究するのを重視！

復習 南宋の時代に生まれた儒学は？

答え：

## ●キリスト教と清の関係は？

①キリスト教の宣教師がヨーロッパの進んだ文化を紹介  
例：                      など

②しかし、のちにキリスト教の布教を全面禁止  
原因は